反核医師の会ニュース

HANKAKU ISHI no KAI News

Physicians Against Nuclear War（PANW）
核戦争に反対する医師の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5
新宿農協会館　全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5123　FAX 03(3375)1862
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

力による支配と核抑止論を打ち破り、核なき世界へ

反核医師の会が第22回全国大会を開催（6／7）

「第二次トランプ政権と世界平和の行方」をテーマに三牧聖子氏が記念講演

反核医師の会は6月7日、第22回全国大会を東京で開催し、現地・オンライン併せて61人が参加した。午後の記念講演では、同志社大学大学院　グローバル・スタディーズ研究科教授の三牧聖子氏が、「第二次トランプ政権と世界平和の行方」をテーマに講演した。

以下、記念講演および午前の全国大会の概要（2面）について報告する。



全国大会で報告を聞く参加者

記念講演の概要

トランプの世界認識

今、米国がアメリカ第一主義を標榜する背景には、2025年のトランプ大統領の就任式の演説で、「米国がこれ以上つけ込まれることを許さない」と発言したように、戦後80年間がアメリカにとっては搾取され続けてきた80年間であるという認識がある。

貧困国に対して共産主義の拡散を防ぐという戦略的な意図はあったにしても人道支援を続けてきたが、そんな余裕はない。USAIDはムダと浪費の機関だとして縮小を図った。

また、アメリカは民主主義の国ではなく、Brologarchy（富裕な男性による支配）の国になっている。就任式にはGAFAのCEOがならび、イーロン・マスクが一民間人でありながら、政府効率化省のトップに就任して「無駄」な政府出費を削減した。

そして「肉が買えない」庶民の一方で、トランプは巨額の資産を積み上げている。

アメリカンドリームを信じない人の割合が過去最高の7割となり、NO KINGSデモも全米で800万人が参加するまでになった。

トランプ時代の平和とは

トランプは、大統領選挙中には平和の大統領になる、バイデンはウクライナもガザも止められなかったが、私なら止められると宣伝していた。

しかし、トランプの平和はビジネスでしかなかった。トランプ・プーチン会談ではビジネスパートナーを引き連れビジネスや投資の取引を進めた。ガザについてはガザ・リゾート計画を提案するなど、パレスチナの歴史や文化をまったく顧みない態度を取っている。

2025年12月5日発表の「国家安全保障戦略（NSS）」では、「米国が世界秩序を支えてきた時代は終焉」「他国のことに関心を払うのは、米国の利益に関与する場合のみ」と明言した。同盟国には、「自分の地域における主要な責任を引き受けるべき」として、防衛への自助努力を大幅に増やすことを求めた。

こういった世界戦略の行く末に、米露中がそれぞれの関心領域では好き勝手にやり、それについてはお互いに干渉しないという「ヤルタ2・0」の世界観も見えてくる。

高まるイラン戦争批判・誰のための戦争なのか

イラン攻撃を行うにあたり、ネタニヤフをはじめとするイスラエル幹部との検討が行われている。テロ対策センタートップが「イスラエルとその強力な米国のロビー団体の圧力によって、この戦争を始めたのは明らかだ」と言って辞任。MAGAの中でも「MAGAではなくてMIGA（イスラエルファースト）だ」としてイスラエル批判が広がっている。

米国国民のイスラエル、パレスチナ観は大きく変化してきていて、民主党支持者ではパレスチナ支持59%イスラエル支持21%、有権者全体でも逆転した。しかし、議会では民主党も親イスラエル派が多数を占めている。

民主党は復活できるのか

トランプ支持の低下の一方で、民主党への支持も過去35年間で最低となっている。大統領選で、物価高や違法移民問題など、生活問題を焦点としたトランプに対して、民主党は自由、機会平等など抽象的な訴えで負けた。

2面へ続く

反核医師のつどい in 愛知

参加募集はじまる

テーマ：力による支配と核抑止力論を打ち破り、戦争も核兵器もない未来を

日　時：10月31日（土）13時30分～
　　11月１日（日）13時15分

今年の反核医師のつどいは愛知県名古屋市のウインクあいちで開催されます。９人の講師が登壇し、シンポジウム、対談、講演など多彩な企画が準備されています。

企画の内容は次頁をご参照ください。

参加募集もすでにはじまっています。多くの方のご参加をお待ちしております。

参加の申し込みは、こちらの二次元コードからお願いします。

なお、宿泊につきましては、混み合うことが予想されますので、早めにご予約ください。

ガンマ線

2026年NPT再検討会議は、5月22日成果文書を採択できないまま閉幕した。会議の冒頭、グテーレス事務総長は「社会全体が記憶喪失に陥っている」、「手遅れになる前に、核兵器をめぐる集団的忘却を打ち破ろう」と訴えられた。

成果文書が採択できなかったことは残念であるが、今回の会議のベトナムのヴェット議長が合意に向けて驚異的な努力をされたことは高く評価できる。従来、一部の締約国によって作成されていた成果文書を、会議の早い時期から草案として提示し、各締約国の意見を集約して数回の改定版が提示された。締約国間で異なる立場を超えて核兵器の廃絶に向けて真剣な論議が行われた。力と脅迫による一方的な外交ではなく、このような外交努力こそが法と信頼に基づく国際社会を築いていくことになる。

会議では、核兵器を容認する国々が、「核戦争による被害、核兵器使用の非人道性」の記述についての削除を求めたという。再び核兵器が使われることになれば、人類の生存にかかわる壊滅的結末を生じる。そのためには、広島・長崎で経験した被爆の実相をすべての国の人々の共通の認識にしていくことが必要である。

今年81年目の暑い夏を迎える。被爆者が毎年一万人ずつ亡くなっている中で、私たちには被爆を体験した日本人の「二世・三世」として被爆の実相を語り継ぐ使命がある。

（KH）

民主党の中にも「反エスタブリッシュメント」の新しい風が生まれている。ゾーラン・マムダニニューヨーク市長は家賃の固定や市営バスの無料化を掲げ、若者や労働者らの支持を集めた。イスラエルの軍事行動も厳しく批判している。

テキサス州の上院議員をめざすジェームス・タラリコも、「アメリカを破壊している唯一のマイノリティは億万長者だ。トランスジェンダーの人々は私たちの医療を奪っていない、ムスリムは学教予算の負担になっていない、移民の存在は私たちの税負担を増してはいない」と訴えている。

若年層を中心にイスラエルロビーからの献金を受けない議員への支持は広がっている。アメリカが脱イスラエル政治に転換できるかは、こういった議員を伸ばせるかどうかにかかっている。

（代表世話人　向山　新）

全国大会の概要

26年度活動方針と大会決議を採択

天谷静雄代表世話人（保団連副会長）が2025年度活動のまとめと2026年度活動方針案を提案。被爆80年の昨年は日本被団協のノーベル平和賞受賞が追い風となり反核運動が盛り上がる一方、年末から今年にかけては高市政権が大軍拡路線を推し進め、非核三原則の見直しに言及するなど、平和主義がかつてない危機に瀕していると情勢を分析した。NPT再検討会議が3回連続で成果文書を採択できない中、署名99カ国・批准74カ国と国連加盟国の過半数に達した核兵器禁止条約（TPNW）こそが「希望の光」だとし、11月のTPNW再検討会議への若手代表派遣、非核三原則見直しと憲法9条改憲発議を許さない国民的大運動の推進を提起した。組織拡大では、入会の半数を学生が占めて会員数が増加に転じたことが報告された。

討論では、10月31日～11月1日に名古屋で開催する「反核医師のつどいin愛知」の企画、学生部会の活動とTPNW再検討会議への学生5名の参加表明、若手医療者の「いっぽプロジェクト」の取り組みなどが報告された。金融機関に核兵器製造企業への投融資中止を求めるDBOB（Don't Bank on the Bomb）プロジェクトからは、投融資禁止を表明した金融機関がこの間1社から26社へ増え、日本被団協、核兵器をなくす日本キャンペーンと共同で三井住友、みずほ両フィナンシャルグループとの懇談を実現したことが報告され、活発な討論が行われた。

大会は、活動方針案、決算・予算、規約改定、役員体制の補充を承認し、大会決議「力による支配と核抑止論を打ち破り、核なき世界への運動促進と被爆国日本のあるべき態度を迫ろう」を採択した。午後には、ニューヨークでのNPT再検討会議に参加した早川純午世話人からの報告が行われた（4面参照）。



三牧聖子氏

反核医師のつどい in 愛知 先行企画 兼 反核医師の会・愛知記念講演会

被爆の実相広げ、核兵器禁止条約に参加を



記念講演講師の土田弥生氏

6月13日（土）午後、反核医師のつどいin愛知実行委員会と反核医師の会・愛知は、協会伏見会議室で、土田弥生氏（原水爆禁止日本協議会事務局次長）を招いて講演会を行った。テーマは「国連憲章違反の力の支配をやめ、核兵器のない平和な世界の実現を～NPT再検討会議　国際共同行動に参加して～」で、現地29人、WEB30カ所から参加があった。10月末に開催される「反核医師のつどいin愛知」の先行企画として取り組まれた。

土田氏は、今世界に一万二千発を超える核兵器があり、核兵器国は核の脅しを強め、非核兵器国は核の傘への依存を強めており、世界が核破局の危機に陥っていると話した。そのような情勢の中で開催されたNPT再検討会議では、3回連続で最終文書が合意できなかった。NPTは核軍縮、核不拡散、原子力平和利用を柱にした条約で、核兵器国（米露英仏中）は第六条に定められた、核軍備撤廃の交渉をする義務を負っている。今回のNPT再検討会議でも、圧倒的多数の国・市民社会が核兵器国に対し、第六条の義務と過去の核兵器をなくすとの合意の履行を迫った。グテーレス国連事務総長は、「各国は条約に基づく約束を遵守しなければならない。例外なく。条件なしに。遅滞なく。言い訳なしに。今こそ平和への唯一の真の道として、軍縮と不拡散へのコミットメントを再確認すべき時だ」と発言している。

また、11月に初めての再検討会議が開かれる核兵器禁止条約は、核廃絶への希望の光だ。各国で、原爆展や被爆証言を通じ、被爆の実相を知らせ広げることで世論をつくり、自国を核兵器禁止条約に参加させることが必要だ。世論を力に共同を進めようと話した。

また、NPT再検討会議に参加した早川純午世話人、山本節子氏からも参加報告があった。



核兵器禁止条約第一回再検討会議への学生部会員派遣に向けたカンパのお願い

2026年５月吉日
反核医師の会学生部会　代表
石﨑　明珠
反核医師の会学生部会　事務局長
藤澤　　舞

拝啓

時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素より医学生の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

私たちは「反核医師の会学生部会」として、核の問題を中心に学習を行い、次世代の医療者として平和について考える活動を行っております。このたび、2026年にニューヨークで開催される核兵器禁止条約第一回再検討会議（ＴＰＮＷ）へ５名の部員が参加を希望しています。ＴＰＮＷは、核兵器の開発・実験・保有・使用・使用による威嚇などを国際的に禁止し、被爆者支援や環境回復にも取り組みながら、「核兵器のない世界」の実現を目指す国際条約です。世界各国の医療者・学生が集うこの会議は、核兵器廃絶や平和構築について国際的な視点で学び、交流できる貴重な機会です。

しかしながら､学生主体の活動であるため、渡航費・宿泊費・会議参加費などの負担が大きく、参加に必要な費用の確保に苦慮しております。

そこで誠に恐縮ではございますが、皆さまにご支援・ご協力をお願い申し上げます。いただいたカンパは、会議参加に伴う交通費・宿泊費・参加費等に大切に活用させていただきます。なおご支援いただいた方には、後日活動報告をお送りいたします。

今後とも医療系学生への変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

敬具

核兵器禁止条約（TPNW）第１回再検討会議への医学生・青年医師派遣、学生部会フィールドワーク、反核医師のつどいin愛知

500万円カンパへのご協力を呼びかけます

今回、派遣予定のみなさん（順不同）



清水　克樹さん
信州大学
医学部医学科
４年次



藤川　日生さん
札幌医科大学
医学部医学科
６年次



松久　凌大さん
秋田大学
医学部医学科
６年次



湯野　遥菜さん
東北医科薬科大学
医学部医学科
３年次



山田　早絵さん
長崎大学
医学部医学科
６年次



田村　大地さん
松本協立病院
研修医２年目

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）会員のみなさん。関係者のみなさん。

今年、11月末から12月にかけて、ニューヨークの国連本部において核兵器禁止条約第１回再検討会議が開かれます。核兵器禁止条約は2017年7月に採択され、2021年1月に発効しました。今回は、発効後初めての再検討会議となります。反核医師の会としては、過去の締約国会議にも2回医学生や青年医師の派遣を行ってきましたが、今回上記に紹介する医学生５人、青年医師1人の計6人を派遣する予定です。

ご承知の通り、今般の物価高騰、円安の影響をうけ、アメリカへの渡航費用は高騰しているのが現状です。しかし、この貴重な機会に次代を担う医学生や青年医師を現地派遣することは、今後の会の発展､反核平和運動にとっても重要と考え、計6人を派遣することとしました。

つきましては、会員、関係者の皆さんからのご支援をよろしくお願いします。

左に学生部会からの訴えを掲載します。また、各参加予定者からの訴えを別紙の形でお送りしますので、ご覧ください。

送金先は4面下参照

9月には学生部会のフィールドワークが長崎で開催されます。

2026年9月12日（土）
13日（日）
・被ばく遺構めぐり
・被爆者の方、被爆二世の方のご講演
・スモールグループディスカッション
会場：長崎原爆被災者協議会・長崎タクシー会館

さらに、10月31日～11月1日で反核医師のつどいin愛知も開催されます。

ことしの大きな取り組みをすべて成功させるために、反核医師の会として、総額５００万円のカンパを呼びかけて取り組みます。

ぜひ、皆さんのご協力をお願いいたします。

ＴＰＮＷ再検討会議参加者からの訴え

核兵器禁止条約第１回再検討会議に派遣予定の田村大地さんからの決意文（一部抜粋）をご紹介します。なお、田村さんの全文と医学生の方々の文章は、別紙の形でお送りさせていただきます。

ＴＰＮＷ参加に向けて　決意文

田村　大地（松本協立病院　研修医２年目）

こんにちは。長野県で研修医２年目として働いております、田村と申します。

日頃より反核医師の会の活動に多大なるご関心とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。私はこれまでも、学生時代から反核医師の会の活動に参加してきました。2023年のＩＰＰＮＷ世界大会（ケニア）や2025年のＩＰＰＮＷ世界大会（長崎）への参加に際しましても、皆様からの温かいお力添えが大きな支えとなりました。そのおかげで、私は医療者として核問題に正面から向き合う機会を得ることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

この度、今年12月に開催される核兵器禁止条約（ＴＰＮＷ）再検討会議への参加を決意いたしました。被爆から81年を迎える今、被爆者の方々に残された時間はわずかであり、私たちがその願いを引き継ぎ行動できる最後のチャンスであると考えています。

ここ数年、学生部会の活動も大きな盛り上がりを見せており、今回の会議にはすでに５人の医学生が参加を表明してくれました。彼らのエネルギッシュな姿に背中を押されるとともに、医師として、そして研修医として派遣していただけることに身の引き締まる思いです。皆様が長年かけて築いてこられた「反核医師の会」の想いを、学生たちと共にしっかりと次代へ繋いでいく所存です。

（中略）

お寄せいただいた資金は､この活動を全うするための糧とさせていただきます。また、現地からのリアルタイムでの情報発信、ＳＮＳやニュースレターを通じた活動記録の共有、帰国後には皆様への感謝と報告として、報告会を開催していきます。現地の空気感と議論の深まりを、日本で活動する皆様と共有し、具体的な次なるアクションへ繋げてまいります。

医療者として、そして一人の市民として、学生たちと協力し、平和の声を届けるために全力を尽くす所存です。どうか温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

核兵器をなくす日本キャンペーン2周年イベント開催　「いっぽの歌」の合唱も





2026年6月28日、東京都内の聖心女子大学にて、核兵器をなくす日本キャンペーンの結成2周年イベントが開催されました。現地約80人、オンライン40人が参加。運営には学生を含む多くの市民ボランティアが関り、活気の溢れるイベントとなりました。冒頭は事前アンケートをもとに、参加者同士が核廃絶や政治について対話を行いました。続いてこの1年間の活動を振り返る動画が流れ、被爆者で被団協の代表理事もある田中熙巳さんや事務局の浅野英男さんが活動報告。そして次の1年に向けての活動方針を渡辺明子さんが発表し、各地に反核の活動を広げるために養成講座の開催などの計画と参加を呼びかけました。その後は広島・長崎のコーディネーターやボランティアなど、活動を引っ張ってきたメンバーを交えた座談会で、この間の活動への思いやこれからの展望を語りました。イベントの最後には「核兵器をなくすうたごえ」チームによる歌のセッションが行われ、ABC for Peaceのテーマソングである「いっぽの歌」をメンバーの河野絵理子さんのリードで合唱しました。当日の様子はＷＥＢでもご覧になれます。

https://www.youtube.com/watch?v=5VzL7nUdvoY

第11回 NPT再検討会議2026 ニューヨークに参加して

第11回NPT再検討会議2026が開催された。4月25日~5月4日まで、原水協代表団の一員として、早川純午世話人が参加した。その報告を掲載する。

4月25日~5月4日、NPT再検討会議、関連集会などに原水協代表団95人の一員として参加しました。被団協、原水禁、生協連などを含む4団体と一緒でした。

4月26日、午前のNY国際共同行動は、愛知の被爆者・金本さんの指揮で「原爆許すまじ」を全員で歌ったのに感動し、国連まで「No more Hiroshima,No more Nagasaki,No more Hibakusha,No more War」と大きな声を張り上げ行進しました。



参加者全員で記念写真

午後の国際会議では、核兵器保有国で核弾頭の改良や拡散の脅威の高まりや、北朝鮮の核兵器研究の進化、新START失効で米露の核兵器増加について報告がありました。ロシアのウクライナ侵攻と核の脅しに対し、マクロン大統領は「今後50年は核兵器の時代になる」としてフランスの核抑止力強化のため核弾頭数を増やす、欧州同盟国にも抑止力の議論を広げようとしているなど報告されました。

非核保有国は、核爆発が、被爆だけでなく、気象変動を生じ人類の危機を招く。軍事・核兵器開発に使う金を、生活に困っている世界の人々に使えと訴えました。核抑止は、相手が先制攻撃や核使用をためらうよう、壊滅的な反撃の可能性を示す考え方だが、相手が「合理的に行動すること」を前提にしており、前提が崩れれば、誤認、偶発事故など破局を生む危険を指摘。核抑止力は抑止にならない。「相手を怖がらせる平和」ではなく「戦争の原因を減らす平和」をどう制度化するかだ。核兵器保有国に開発の透明性の確保とNPT第6条の実施を要求する、核をなくすため、非核地域の創設・拡大や反対運動が大事だ。この点で核兵器廃絶運動、核兵器禁止条約は希望の星と訴えられ、非核保有国の核保有国への圧力を強く感じました。

国連傍聴では、中立のベトナムから議長が選ばれ大きな拍手が起きました。その後、副議長の選出でイランが入ったことを、アメリカが猛烈に抗議したことに驚き、「お前が言うことか」と思いました。

世界の国々が様々発言する中で、EUなどが、ロシアのウクライナ攻撃ばかりを批判し、アメリカ・イスラエルの違法なイラン攻撃は非難しないなどアメリカ寄りの発言があった。アメリカから、自分たちはNPTを遵守しているとの発言があり、世界の声の前ではこう言わざるを得ないと思われる発言でした。

日本政府は、核保有国と非核保有国の橋渡しをし、「非核三原則」を堅持し、日本の原子力利用は平和目的に限定していると発言。非核三原則を再検討するという高市政権からのこの発言は重要だと思いました。

核兵器保有国の不同意により、最終合意ができませんでした。しかし大多数の非核保有国からの核兵器保有国への圧力は強く、秋の核兵器禁止条約再検討会議での反核兵器の運動を一層強くするため、広島・長崎の原水禁世界大会の成功が大事だと思いました。

（世話人　早川　純午）

読書案内

「キノコ雲」の上と下の物語 ―孫たちの葛藤と軌跡―

原田小鈴／アリ・ビーザー著　黒住　奏訳

朝日新聞出版（定価2500円＋税）

長崎の三菱重工業の技師だった山口彊さんは出張先の広島で被爆し、ようやく帰った長崎でも被爆した。国連で核兵器廃絶を訴え2010年に他界されている。

ジェイコブ・ビーザー中尉は日本軍からのレーダー照射を観測する「レーダー探索士」としてエノラ・ゲイとボックスカーの両方に搭乗していた。被爆した兵士にたいする年金が支給されていたが骨腫瘍で亡くなった。1985年に広島平和公園を訪れ「いかなる戦争行為にも誇れる瞬間などない」と語っている。

広島・長崎の二重被爆者は166人とされているが攻撃した側では唯一の二重被爆者である。

ジェイコブ・ビーザー氏の孫のアリさんは平和活動に取り組む映像作家である。2013年6月、25才の時に伝手をたどって長崎の山口彊さんの遺族を訪問して娘の山崎年子さん、孫の原田小鈴さんと話をすることが出来た。2人とも証言活動をされてきていた。

アリさんはピースボートで世界旅行に出かける前であり、小鈴さんに「いつか一緒にピースボートに乗りませんか」とさそって交流が始まった。



広島、長崎でキノコ雲の上と下にいた祖父をもつ日米の2人は「被爆80年に本を出版したい」との思いを抱き、朝日新聞の田井中雅人氏に相談して本書の編集が始まり、祖父の記録や時代背景などを詳細に調査して、2025年7月30日に出版に漕ぎ着けた。

日米の二重被爆者の足跡と、孫たちの原爆の歴史を繰り返さないための交流が詳細に記されている。後半は二人の往復書簡16通であり、小鈴さんは「覚悟と勇気を持ち、会いに来てくれて本当にありがとう。とても感謝しています」と結んでいる。

（世話人　青木　克明）

会費納入のおねがい

（2026年４月１日～2027年３月末）

反核医師の会は、会員のみなさまの会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。

2026年度（2026年４月１日～2027年３月31日）の会費納入のほど、よろしくお願いします。

個人会員（医師・歯科医師、医学者）　10,000円
専攻医　5,000円
研修医（卒後２年まで）　3,000円
医・歯学生会員　1,000円
賛助会員　1,000円

振込先
◇りそな銀行　新都心営業部　普通　1557502
「反核医師・医学者の集い」
◇ゆうちょ銀行（他銀行からの振り込みの場合）
〇一九支店　当座　0056764「反核医師・医学者の集い」
◇郵便振替00170-7-56764「反核医師・医学者の集い」

核兵器にお金を貸すな！ Don't Bank on the Bomb (DBOB)

ＳＮＳでショート動画配信、金融機関アンケートを実施

近畿反核医師懇談会は、Don't Bank on the Bomb の取り組みとして、YouTube にショート動画をアップしています。

あなたの銀行はどっち？
https : //youtube.com/shorts/5ClTuhfcYes



https : //youtube.com/shorts/9a1wrNVXe5g



https : //youtube.com/shorts/hwo4lrYAslc



ＤＢＯＢプロジェクトでは、アンケート（第７弾）を実施。約200社の金融機関にアンケートを送付しました。結果は、８月４日に原水禁世界大会が開かれている広島で記者会見で発表しました（詳細は次号予定）